5日目37人

おかやま派遣村、本日「閉村」

5日計延べ186人

延べ２００人を超える勢いの入村者

おかやま派遣村への入村者は５日間のトータルで延べ１８６人。最終日の１月３日分を足すと、軽く２００人を突破する見込みとなりました。

本日も、夕方４時過ぎに駆け込みで相談があり、最後まで気が抜けない事態となっています。ボランティアも今日は５０人と増え、炊き出しに加え、トン汁などのまかないをおこなうまでになりました。

シェルター利用は２件

本日の緊急シェルター利用は２人でした。夕方に兵庫から来たという方は、事務局の説明の悪さもあり、派遣村まで、いまのところ辿りつけておらず、こんごの案内のしかた等に課題を残しています。

東京では大変な事態に

全労連からの情報では、東京の派遣村では、東京都によめいやがらせを含めて大変な事態となっています。（以下、全労連情報）

「ワンストップの会は本日、昼から夕方まで、オリンピックセンター前で宣伝行動をおこなうとともに、大型バスを配車して相談活動を実施、１２時半前に行くと、警察車両が陣取り、バスに「駐車違反切符を切る」と脅し、移動させていました。ワンストップの会は、妨害に屈することなく、入所者には整然とバスに乗り込んでもらい、周辺を走らせながら、４班・計８０名の学習・相談に応じることができました。また、資料をもらいに来て、話をした人も多数います。（中略）中の様子を聞くと、人数を増やし相談活動が強められているようですが、「離職から２年以上たっている人は生活保護は受けられない」と言われたが本当か？とか、「生保申請しても、それが降りるまで当面のお金がないから暮らせないだろう」と言われたが、「つなぎ資金があるんでしょう？」と反論すると、黙ってしまったなど、相談者によるようですが、生活保護申請をできる制限しようという動きも発覚しています。オリンピックセンター内の管理体制は厳しく、外に出てくるにも外出許可など大変ですが、入所者はワンストップの会とつながりがんばっています。

警察車両が陣取っていたのも、東京都から電話があったためだと思われますが、生活保護申請を抑制したり、当人の希望でなく役所の都合で１月４日以降の行き先を割り振りたいから、ワンストップの会との接触を断ちたいからだと思います。「報道と言えば入れる」という話もありますが、ワンストップの会の内部への立ち入りは拒否されたまま、３１日の緊急要望についても回答しないという不当な態度を取り続けています。

派遣・労働者支援センター

派遣村ニュース

第５号　2010年１月２日

発行：派遣・労働者支援センター

岡山市北区春日町5-6　県労おかやま内

TEL. 086-234-2041　fax. 086-221-3595